

市村到君の新刊『言葉の玉手箱』紹介

上原 昇（2組）

市村到君（4組、御代田町在住）の何冊目かになる著書が9月に上梓されました。

題名の『信州発 言葉の玉手箱』というネーミングが洒落ています。

市村君からの手紙には「第1部では、身近な言語を種々の観点から考察。第2部では実際の英語教室で教材をどのように扱ったかを紹介」とあります。

著者の長年の教育者としてのキャリアと、30年間にわたって集めてきた「気づきノート」が言葉の玉手箱の源になっているようです。

前半の第1部では、読んでいて「成程!」「その通り!」と思わず相槌を打ちたくなる箇所がそこかしこに出てきます。

後半の第2部は英語教育の歴史と展望など専門的な内容構成になっています。

中には、今年の4月に著者が「蕨の会」にゲスト参加した際に、甲府の酒折宮で目にした「片歌問答」について触れていたり、同期の友人の活動を紹介したりしているのも、読んでいて親しみがわきます。

特に言語（言葉）に関心のある方には、是非手にとって一読をお薦めします。



『言葉の玉手箱』の表紙

(2025年10月2日記)

以上